

# やり取りを盛り上げる Conversation Strategies の導入

藤本 貴之

## 1. はじめに

2022年度から実施される新学習指導要領では、科目名が「コミュニケーション英語」から「英語コミュニケーション」に変更され、英語によるコミュニケーションがより強く求められています。そして、言語活動を通して「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」の総合的な英語力を身に付けることや、外国語でコミュニケーションを図る力の育成が改めて強調されています。

本稿では、4技能の中で、話すことが「やり取り」と「発表」に分けられたことを受け、改めて、言語習得の側面からなぜやり取りが重要とされているのかを確認し、具体的な指導方法について紹介したいと思います。

## 2. 理解可能なインプットの重要性

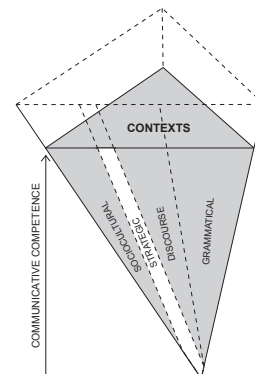
Krashen(1982)は、言語習得には、聞いたり、読んだりして内容を理解することが必要であるとインプット仮説(Input Hypothesis)を提唱しました。ただ、単に英語を聞く、文字を見るだけでは効果はなく、聞いたり、読んだりして、内容を理解することが、言語習得には欠かせないとしました。その後、Long(1983)は、会話の中で理解可能なインプットをするには、わからないところを補いながら、理解を深めていく必要があります。学習者が意味の交渉(negotiation for meaning)をしながら、内容理解していく相互作用説(Interaction Hypothesis)を提唱しました。ここでの意味交渉とは、会話の中で、聞き手が話し手の内容を確認したり、話し手が聞き手のスピーチの理解を確認しながら会話を進めていく、まさにやり取りそのものを指しています。スピーチをしていても、話し手が内容を伝えようとしていなければ、また、聞き手も内容が理解できなければ、習得に及ばないということです。

例えば、授業で英作文を書かせた後に、書いたことを周りの生徒と話し合う活動を行っても、書いた

ことを読み上げているだけで、話し手が聞き手のことを配慮していなかったり、聞き手が話し手の内容を理解しようとしていなかったりすることがあります。これでは、理解可能なインプットにならず、言語習得には至らないということです。では、どのように話し手が聞き手のことを意識したり、聞き手が話し手のことを意識したりする会話ができるようになるのでしょうか。ここで紹介するのが、Conversation Strategies(CSs: Kenny & Woo, 2011)というものです。授業の言語活動の中で、CSsを生徒が使えるように指導する必要があります。

## 3. コミュニケーション能力とは

Savignon(2002)によると、コミュニケーション能力を構成する要素は4つあります。1文レベルなら正しい文が書ける、また、正しい音声ルールで話せる「文法能力(Grammatical Competence)」、文と文をつなげて、意味のある、わかりやすいメッセージ伝達をする「談話能力(Discourse Competence)」、その社会に対して正しい言語使用ができる「社会言語能力(Socio-linguistic Competence)」、そしてコミュニケーションの効果を高めたり、不十分さを補ったりする「方略的能力(Strategic Competence)」です。



上の図は、コミュニケーション能力について

Savignon(2002)が図式化したものです。コミュニケーション能力の4つの要素が広がるにつれて、コミュニケーション能力が向上することを示しています。注目すべきことは、コミュニケーション能力に関係なく、どのレベルにおいても Strategic Competence が存在していることです。これは、コミュニケーション活動において、相手の話を聞き直したり、相手の言ったことを繰り返したりすることは、学習者がどの段階であっても、習得できるということです。したがって、CSs を導入して、どんなレベルの生徒でも Strategic Competence を高めることが可能であり、必要となります。

#### 4. 授業の中でできること

CSs とは互いの言語能力が不足している場合に、相手の言ったことを繰り返したり、聞き直したりしながら会話を補強するためのものです。CSs には「聞き直す」「繰り返す」「言い換える」「話題を発展させる」などがあります。ここでは、基本的な Rejoinders(あいづち)や Shadowing(オウム返し)、Follow-up questions (追従する質問)を以下の表にまとめ、紹介します。

Rejoinders
Oh, I see. / Really? / Great! / Wow!
Shadowing
例1. Have you ever been to Tokyo? — Tokyo? Yes.
例2. I watched a soccer game yesterday. — Oh, a soccer game! Nice.
Follow-up Questions
A: I like watching sports. B: <u>What sport?</u> A: Basketball. B: <u>Who is your favorite basketball player?</u> A: ...

これらのCSs は主に聞き手が話をしっかり聞いてリアクションするものです。これらのCSs を聞き手が使用することで、話し手は「聞いてくれる」という安心感を得ることができ、もっと伝えようとする気持ちになります。このことは、みなさんが試しに、日本語で会話をする際に上の表にあるCSs を使わないで会話をすると、その大切さがわかります。授業でCSs を導入する際には、生徒が無意識にCSs を使うようになるまで練習する必要があります。そのため、生徒の状況を確認しながら、

少しずつCSs を導入することが大切です。Rejoinders や Shadowing が自然とできていない状態で Follow-up questions を導入すると、会話が盛り上がりず、続かないことが考えられます。

#### 5. CSs が生徒に与える効果

授業でアンケートを行い、CSs の使用についてどう感じたか、生徒に聞きました。以下の表は、生徒のコメントをそのまま載せたものです。

リアクションがもらえないと話がもりあがらないけど、逆に、共感の言葉をもらえると、話していて楽しくなる。
リアクションがあってやりやすい、ないとやりにくい。
ペアワークとかパフォーマンステストの時に友達が使っていると自分の話を聞いてくれているんだなと思いました。
スピーキングテストの時に緊張していても自然とリアクションがとれるようになりました。

CSs は、英語で会話をしている際に、話を盛り上げたり、安心感を与えたりする働きがあります。簡単なQ&Aを答えさせる時でも、ペアで言語活動を行う際には、CSs を使用させ、会話を盛り上げることが、積極的なコミュニケーション活動においては欠かせません。簡単な表現でも、徹底して使えるようにすることが大切です。

#### 参考文献

- Kenny, T., & Woo, L. (2011). *Nice Talking With You Level 1 Teacher's Manual*. Cambridge University Press, Singapore.
- Krashen, S. (1982). *Principles and Practice in Second Language Acquisition*. New York: Prentice-Hall.
- Long, M.H.(1983). Native speaker/non-native speaker conversation and the negotiation of comprehensible input. *Applied Linguistics*, 4(2), 126-141.
- Savignon, S.J.(2002). Communicative Language Teaching: Linguistic Theory and Classroom Practice. In S.J.Savignon (Ed.). *Interpreting Communicative Language Teaching*, 1-27. New Haven & London: Yale University Press.